旬の沖釣りをエンジョイ！

今がチャンス！ これから楽しみ！

釣りどきレポート

Best Season Report

ウロコ雲が広がる空や鈴虫の鳴き声に
秋の到来を感じる今日このごろ。
海の中も秋を感じさせる魚たちが
各地で解禁＆開幕を迎えています。

◉外房大原港発↓大原沖

数型ともに順調な出足 大原のフグ始まりました

本誌編集部／近田憲男 Norio Chikada

外房大原のショウサイフグが解禁した9月1日、その模様をお届けするため利永丸へ向かった。

ここ大原はフグ釣りのメッカ、解禁の二文字を見ると釣れそうな気がして心が躍り、フグの腹のように期待を大きく膨らませてしまう。

4時前に中井春樹船長が到着。受付を済ませて船内に道具を積み込み、タックルの準備をするお客さんの表情はやる気に満ちていて、一人一人にあいさつをするうち私も気合が入ってきた。

船長の読みが的中

「昨年の解禁でいい釣りをした真沖へ行きます。そこで様子を見て釣れないときは太東沖へ向かいますよ」と船長。

4時20分に私を含めて6名の乗船客を乗せて出船し、20分ほどで大原沖の水深15メートル前後に到着。ほかに2隻のフグ船が見える。ポイントは砂地で根掛かりの心配はないそうだ。

5時になり、「どうぞ。水深14メートルです」のアナウンスでいよいよ釣り開始。

船長に教わった釣り方は、船下に仕掛けを沈めて着底させ、糸フケを取ったら5秒待ち、30～50センチ幅で軽くシャクって空合わせを入れる「タイム釣り」。また、底で待っている間にアタリがきたら即合わせする方法。

最初の流しでは2人が、2流し目は残りの3人がショウサイフグを釣り上げて、早くも全員がフグの顔を見た。

幸先よい出足で船長もひと安心、この釣れ具合なら私でもお土産は釣れそうとさらに期待が膨らむ。

その後も流し変えのたびに船中で25センチ前後のフグが釣れ上がり、手返しよく釣っていた左トモ2番の米田さんは早くもツ抜け。

8時になると、太東沖へ向かったフグ船が続々と大原沖に集まり、10隻がひしめき合う。

移動してきたということは太東沖が渋かったわけで、大原沖を選んだ船長の読みがズバリ的中したのだろう。

ただしプレッシャーが高くなったのか次第にアタリが遠くなる。

サイズアップに成功

ここで船長は船団から少し離れた場所へ移動。

「水深16メートルです。根掛かりに注意してください」

船長によると砂地で海底にはカジメが生えており、良型のフグが釣れるという。

さっそく右トモの風間さんがアタリをとらえ、キュッと合わせを入れるとガツンと竿が止められる。竿先を何度もたたかれながらリールを巻き、取り込んだのは38センチのデカフグ。ギリギリと歯ぎしりするような音を出し、腹を大きく膨らませている。

「このサイズが釣れるとうれしいですね。刺身にするのが楽しみです」と風間さん。

これを皮切りに30～35センチ前後のフグが船中のあちこちで取り込まれた。

10時過ぎ、私も竿を出す。アオヤギをオモリに付いたエサバリに、キモ、ベロと縫い刺しして4個付け、船下へ投入。着底するやないなやコツコツとアタったため即合わせするといきなり掛かった。夢中でリールを巻き、35センチを取り込む。

エサがまだ残っていたのでアオヤギを1個足して再投入。今度は仕掛けが着底してもアタらなかったので、5秒数えてから空合わせを入れるとズシリと重量感が伝わり、ゆっくり巻き上げて30センチ級を釣り上げた。

再投入して空合わせすると、今度はカジメの茎が引っ掛かってきた。周りでもカジメが掛かっていて釣りにくそう。

それを見た船長は潮回りし、「水深13メートルです、どうぞ！」とのアナウンスで再開。

投入し5秒数えているとゴゴンときたので即合わせするも空振り。再着底させるとすぐにアタり、キュッと合わせたがスカッ。

アタリがあってもなかなか掛けられないため仕掛けを交換し、投入。するとまたもやゴゴンときたので即合わせを入れると今度は掛かった。30センチ級のフグを取り込んだところで11時の沖揚がり。

皆さんの釣果は18～38センチのショウサイフグを一人10～32尾だった。

釣り上げたフグは船長がさばいてくれるので、帰宅してからの料理は楽ちん、夜は大好物の空揚げにして秋の味覚を堪能した。

9月中旬ごろからは太東沖へ舞台を移して数釣りが楽しめるようになるとのことなので今後も期待が持てそうだ。

▲解禁を迎えて盛り上がりを見せる外房大原のフグ

▲釣り場は大原沖の水深15メートル前後

知得！ Tips and Tricks ●船長に聞きました 空振りが多いときは？

合わせても掛からないときはハリ先を爪などに当てて甘くなっていないかチェックしてください。何尾かフグを掛けたり、根掛かりを外したあとはとくにハリ先が甘くなっているはずです。甘くなったハリ先はフックシャープナーで研ぐ、もしくは新しいハリに交換しましょう。

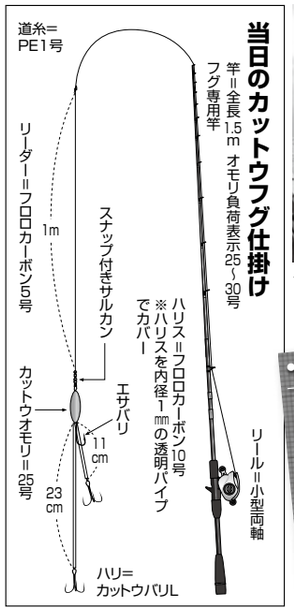
交換用のハリやシャープナーを持参する

▲5秒アタリを待ち、空合わせを入れる

•Tackle Guide

利永丸ではオモリ25号で統一している。オモリの色は様ざまあるが、アオヤギに似たオレンジをメインに薄暗いときや潮が濁っているときはアピールを期待して夜光にする。

当日のカットウフグ仕掛け



▲このサイズが釣れるとうれしい

▲一定の速度で巻き上げる

◉船宿information

外房大原港
利永丸
☎0470・62・4601
（詳細は巻末の情報欄参照）

中井 春樹船長

▶料金＝フグ乗合一人9000円（氷付き）、エサ1パック500円
▶備考＝4時20分出船。午後船マダコへも出船

★釣って釣って釣りまくる『つりコミック』は毎月12日発売
月刊まんが雑誌登場